

事務局 記載欄	開設 年度	2022年度	科目 区分	社会教育主事一部 科目指定講習科目	科目 コード		履修 制限		単位 数	2
------------	----------	--------	----------	----------------------	-----------	--	----------	--	---------	---

科目名（メディア） ＝ 生涯学習支援論 （インターネット配信）

英文名 ＝ [Theory and Practice for Supporting Lifelong Learning]

〔主任講師（現職名）：赤尾 勝己（関西大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉田 敦也（徳島大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：岩崎 久美子（放送大学教授）】

講義概要

本科目は、広く社会教育や生涯学習に関わる者に対し、子どもから大人に至る学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的とする。そのため、生涯学習支援の基本的考え方、学習支援の理論、学習プログラムの編成の仕方、参加型学習とファシリテーション技法などについて理論的に扱うとともに、行政と市民によるまちづくりの実践の事例を用いて、米国の大学で用いられるインバーティブな学習支援技法について取り上げる。

授業の目標

本科目で履修者は、人々の学習支援に関する各種の理論を学び、効果的な学習支援方法があることを理解し、現代的・社会的課題等に関する学習プログラムを編成、実施、評価する力をつけ、さらに参加型学習の実際と、そこでのファシリテーション技法の実例に触れて、人々の生涯学習を支援する力をつけることを目標とする。

評価方法

各回に行う確認テスト（IBT:インターネットを利用したPC等での試験）の合格及び演習終了後に受験できる修了テスト（CBT:テスト会場のPCを利用した試験）、課題レポート等により総合的に評価。

履修上の留意点

※本科目は、インターネット配信限定で視聴する社会教育主事一部指定講習専用の科目です。そのため、受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。受講環境についての詳細は本学ウェブサイトをご参照ください。

※印刷教材は、「生涯学習支援の理論と実践（'22）」と同じものを使用します。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生涯学習を支援するとはどういうことか	本章では、人々の生涯学習を支援するためには、教育学、心理学、社会学による学際的アプローチが必要であり、「支援する側」と「支援される側」の関係性は予定調和的でないことを踏まえ、生涯学習を支援するとはどういうことなのかについて理解する。 【キーワード】 支援する側と支援される側の力関係、学習の三類型教育と学習の関係、文化資本、経済資本、社会関係資本	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
2	私たちは何を学ぶことを要請されているのか ーグローバル・ナショナル・レベルの視点からー	本章では、今日の日本社会において、私たちが学ぶことを要請されている学習の内容について、グローバル・レベルとナショナルレベルから概観してみたい。 【キーワード】 持続可能な開発目標(SDGs)、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)、ハンブルグ宣言、経済協力開発機構(OECD)、キーコンピテンシー、市民的・社会的関与、現代的課題	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
3	生涯学習支援に関わる学習理論と教育理論	本章では、生涯学習支援の根底にある学習理論の変遷を概観する。一方、教育理論も、子ども、成人、高齢者等を対象とした理論の変遷が見られる。さらに、階級や性などの要因を組み込んだ理論の展開がみられる。それらの理論の展開が生涯学習支援の根底にあることを理解する。 【キーワード】 行動主義、認知主義、構成主義、社会構成主義、アクティブ・ラーニング、ペダゴジー、アンドラゴジー、ジェロゴジー、教育老年学、意識化理論、フレイレ、フェミニズム教育学、変容的学習、省察、学習する組織	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
4	生涯学習支援についての基本的な考え方(1)	本章と次章では、学習支援対象者別の支援方策はどのような特質を有しているについて、包摂という観点から、学習支援において留意すべき基本的な考え方を提示する。本章では、超高齢社会に向けた学習支援と合理的配慮に向けた学習支援をとりあげる。 【キーワード】 超高齢社会、流動性知能、結晶性知能、合理的配慮	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	生涯学習支援についての基本的な考え方(2)	前章に続いて、青少年への学習支援、男女共同参画社会へ向けた学習支援、多文化共生社会に向けた学習支援をとりあげる。 【キーワード】 子どもの権利条約、男女共同参画、意識覚醒(CR)、「個人的なことは政治的なことである」、出入国管理法改正、多文化共生、認識の変容、行動の変容、包摂の内実	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
6	学習プログラム編成の理論	本章では、日本とアメリカにおける1970年代以降のプログラム計画理論のあゆみを概観する。ノールズの理論では、学習者のニーズ至上主義という考え方が支配的であったが、その後どのような学習プログラム計画理論が展開されていったのかを理解する。そして、日本における学習者参加型のプログラム編成の例を紹介する。 【キーワード】 プログラム編成、プログラム計画、ニーズ至上主義、相互作用プログラム、合理的な計画への挑戦、世界を創る、「そのプログラムを行う私の理由は何か」、市民参加型プログラム編成	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
7	参加型学習の実践とファシリテーションの技法	本章では、参加型学習とファシリテーションの技法について、人権等の現代的課題に関する学習場面に即してみていく。そこにどんな意義と課題があるかを把握することを目的とした。 【キーワード】 参加型学習、ワークショップ、ファシリテーター、アクティビティ、アイスブレイク、ロールプレイング、フィールドワーク	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
8	生涯学習行政と施設における学習支援	本章では、ケーススタディとして生涯学習支援で成果を上げている大阪市の「生涯学習推進計画」を検討する。そして、市内の生涯学習関連施設では、どのように生涯学習の支援を行っているのか、講座の企画・運営、学習相談、広報等について、職員へのインタビューを入れて具体的な方策を紹介する。 【キーワード】 生涯学習に関する世論調査、生涯学習推進計画、生涯学習センター、社会教育三施設(図書館、博物館、公民館)の施設間連携	赤尾 勝己 (関西大学教授)	赤尾 勝己 (関西大学教授)
9	イノベティブな学習支援技法1:社会変革のファシリテーション	本章では、全米1住みやすい町として世界の注目を集めてきた米国オレゴン州ポートランドを概観する。また40年を超えるまちづくりの主な実践事例を紹介し、ファシリテーションのあり方、なぜ学ぶのか? 何を学ぶのか? 今どんな学習支援が必要なのか? などについて考える。 【キーワード】 自信、信念、誇り、信頼、コミュニティ、住民参加、道路ペインティング、シティリペア、柔軟性、ソーシャルキャピタル、場づくり、変化、プロセスファシリテーション、パブリックキャパシティ	吉田 敦也 (徳島大学名誉教授)	吉田 敦也 (徳島大学名誉教授)
10	イノベティブな学習支援技法2:学びを引き出す仕掛け	本章では、社会貢献型人材育成に効果的なプログラムの実践と教授法について考える。事例として、ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・ラーニング(CBL)、学び直しやキャリア支援のプログラム、ビジター向けのプログラム、日本人向け「まちづくり人材育成プログラム(JaLoGoMa)」等を紹介する。 【キーワード】 ポートランド州立大学(PSU)、コミュニティ・ベースド・ラーニング(CBL)、パートナーシップ、ユニバーシティ・スタディーズ、専門職大学院、都市型大学、キャリア支援、公共サービス研究実践センター(CPS)、ファースト・ストップ・ポートランド(FSP)、まちづくり人材育成プログラム(JaLoGoMa)	西芝 雅美 (ポートランド州立大学大学院教授) 飯迫 八千代 (ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センタープログラムマネージャー)	西芝 雅美 (ポートランド州立大学大学院教授) 飯迫 八千代 (ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センタープログラムマネージャー)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	イノベティブな学習支援技法3:まちを育てる住民活動	本章では、住みよいまちづくりに成功したポートランド市の事例から、地域の身近な問題の発見と解決の芽を育てる住民活動について学ぶ。また、地域力や持続力に効果する小さな取り組み、多様な実践の集積「ソーシャルキャピタル」に焦点をあて、そこでの学びやメンタリングについて考察する。 【キーワード】 自転車文化、自転車法案、住民諮問委員会、草の根活動、NPOトライメット(Trimet)、楽しい、サンデイパークウェイ、ブリッジベダル、バイクハブ、ビジョン	飯迫 八千代(ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センタープログラムマネジャー)	飯迫 八千代(ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センタープログラムマネジャー)
12	イノベティブな学習支援技法4:幸福で健康な暮らしの創造	本章では、子育てをしながら仕事をする観点から、ポートランドの生活とそこでの行動様式、日々の暮らしをどう充実させ、幸福感や満足感をいかに高めるかについて現在2人の子供を育てながら働いている筆者の実体験を基に、発見と気づきのある暮らしへのアプローチを考える。 【キーワード】 働く、子育て、職場環境、20分圏内のまちづくり、多様性、ハード面・ソフト面の視点	飯迫 八千代(ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センタープログラムマネジャー)	飯迫 八千代(ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センタープログラムマネジャー)
13	イノベティブな学習支援技法5:時代が求めるリーダーシップ開発	本章では、ポートランドでコミュニティリーダーとして活動する3人のインタビューを基に、地域やコミュニティのリーダーが持つ特性について考える。特に、コミュニティメンバーとの信頼関係の上に成り立つ「協働型リーダーシップ」とネットワークと仲間づくりを中心に据えた「連結型リーダーシップ」について学ぶ。 【キーワード】 コミュニティリーダー、住民組織、アーバン・グリーン、ネイバーフッドアソシエーション、協働型リーダーシップ、連結型リーダーシップ、対話、合意形成	西芝 雅美(ポートランド州立大学大学院教授)	西芝 雅美(ポートランド州立大学大学院教授)
14	イノベティブな学習支援技法6:テクノロジーの利活用	本章では、人の思考やつながりを拡大・強化し、知識創造、オープンなコミュニティづくり、社会参画を加速するといわれるテクノロジーの利活用に関して、[1]クラウドサービスによる生涯学習支援、[2]デジタルデバイドの問題と対処、[3]自分メディアの活用の3つについて、ポートランドでの実践事例等をもとに考える。 【キーワード】 クラウドサービス、アプリ、ミートアップ、スキルエクステンション、リモート会議システム、電子ブック、デジタルインクルージョン、スマートシティ、放送大学、図書館、リ・イベント、自分メディア、インスタグラム、ポッドキャスト、ハッシュタグ	吉田 敦也(徳島大学名誉教授)	吉田 敦也(徳島大学名誉教授)
15	イノベティブな学習支援技法7:時代を拓くまちづくり	本章では、[1]新型コロナウイルス感染症パンデミックを乗り越える取り組みから時代の扉を開くチェンジメーカーのチャレンジについて紹介する。[2]社会や地域が根本に据えることを考えるための実践事例として「公正性」の観点を導入したポートランドの公共政策について紹介する。 【キーワード】 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミック、ニューノーマル、ジョンズホプキンス大学、COVID-19ダッシュボード、チェンジメーカー、公正性、公平性、マイリティ、多様性、包摂性、アクセス、持続可能性、アフオーダブル、アウトリーチ、ふりかえり	西芝 雅美(ポートランド州立大学大学院教授) 吉田 敦也(徳島大学名誉教授)	吉田 敦也(徳島大学名誉教授) 西芝 雅美(ポートランド州立大学大学院教授)
演習	ファシリテーション演習	Zoom等の遠隔会議システムツール使用した遠隔実施によるファシリテーション演習。 ・ファシリテーターのロールプレイング実習 ・効果的な意思決定と対立回避のためのファシリテーション技能の獲得 ・課題レポート (※ファシリテーション演習の詳細は別紙参照)	岩崎 久美子(放送大学教授) 吉田 敦也(徳島大学名誉教授) 似内 遼一(東京大学助教)	岩崎 久美子(放送大学教授) 吉田 敦也(徳島大学名誉教授) 似内 遼一(東京大学助教)

「生涯学習支援論」ファシリテーション演習 シラバス

1. 担当講師：※五十音順

岩崎久美子（放送大学教授）

似内遼一（東京大学助教）

吉田敦也（放送大学客員教授）

《アドバイザー》 荻野亮吾（日本女子大学准教授）

2. 演習日時：2023年10月29日（日）9時30分～12時40分

※不足の事態が起こった場合の為の予備日：11月3日（金・祝）9時30分～12時40分

演習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ Zoom 使用によるオンラインによる演習を実施する。90分2コマのセッションにより、課題として提出したシナリオに基づき少人数による話し合いを行い、ファシリテーションの実際を学ぶ。 ・ 課題・資料提示・レポート提出は Google Classroom（予定）を、また、適宜デジタルツールの Jamboard と Padlet（予定）を使用する。
演習の到達目標	社会教育士に必要なファシリテーションとは何かを理解し、その技法を身につける。
参加要件	<ul style="list-style-type: none"> （1）個人用の Google アカウントの取得 連絡用として Gmail を使用するほか、Google Workspace にある Google classroom や Jamboard などを演習で使用できること。 （2）個人で使用できる Zoom アカウントの取得 オンライン演習のため使用できること。 （3）事前相談会への1回以上の参加 接続環境チェック、ツールの学習についての事前相談及びアイスブレイクに参加できること。 《日時》：第1回 2023年10月7日（土）10時～12時 第2回 2023年10月14日（土）10時～12時 （4）メールへの応答 メールでの連絡に適宜・適切に応答できること。
事前・事後学習の内容	<p>1. 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷教材（赤尾勝己・吉田敦也『生涯学習支援の理論と実践』（放送大学教育振興会）2022年）及び放送教材（「生涯学習支援論」）による学習 ・ 参考図書として提示した米国で刊行されたガイドブック（Ingrid Bens, <i>Facilitating with Ease! Core Skills for Facilitators, Team Leaders and Members, Managers, Consultants, and Trainers</i> (English Edition) 4th 版等）を翻訳した冊子（2023年夏頃に刊行予定）の学習 ・ 演習で学習した内容に関して振り返り、そのことを反映した A4判1枚程度のレポート（修正したシナリオ）の提出（システム AOBA にアップロード）（必要に応じて講師・TA のコメントを付加する）【評価対象】
成績評価	<p>下記（1）～（3）を適切に行った場合、合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）事前課題の提出：①Padlet による自己紹介、②シナリオ作成、③ファシリテーションのスキルチェック （2）演習への参加 （3）演習後の課題提出：①修正したシナリオ、②自分の中の変化に対する省察に関する質問票 <p>※なお、講習の成績評価については演習の成績のほか、CBT による「社会教育経営論」「生涯学習支援論」修了テスト（テスト会場でのコンピューターを利用した試験）の</p>

	成績を勘案し総合的に評価する。	
演習内容	1 時限目 (95分)	<p>【目的】：ファシリテーターのロールプレイングを行い、ファシリテーションの楽しさ・難しさを体験すること。</p> <p>【内容】：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションを行う場合には、即興性や対応力が重要であるが、短期的な演習で身につけることは難しい。今回はファシリテーションの流れを学ぶことを目的に、ワークショップの準備などで大きなウェイトを占める事前準備と、そこからの一連の流れを体験することを重視する。 ・1 限目では、事前にシナリオを作成し、当日の進行を行ってみる（想定したように進まない体験をする）ことも主眼に置く。 <p>【方法】：Zoom（ブレイクアウトルームによる演習）</p> <p>【グループ構成】：3人～4人を1グループとする。</p>
	2 時限目 (85分)	<p>【目的】：自らのファシリテーションの内省を試みること。</p> <p>【内容】：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターとしての力量向上には、実践と、その後の省察の繰り返しが必要である。熟達は長期的なプロセスとなるが、その入り口として、今回は1 限目のファシリテーション実践に関してふり返りを行い、ファシリテーターとしての事前準備から振り返りまでの一連の過程を経験することを重視する。 ・1 限目と2 限目の連続性を重視してグループは1 限と同じとする。 ・事前準備ができなかった受講者は、シナリオ作成のノウハウを学ぶことを重視する。 <p>【方法】：Zoom（ブレイクアウトルームによる演習）</p> <p>【グループ構成】：3～4人（※1 時限目と同じグループ）</p>
参考図書	米国で刊行されたガイドブック（Ingrid Bens, <i>Facilitating with Ease!: Core Skills for Facilitators, Team Leaders and Members, Managers, Consultants, and Trainers</i> (English Edition) 4th 版等）を翻訳した冊子（2023年夏頃に刊行予定）	
備考		